

「エネルギープラザ2005年度」を開催 「地域力ー内発と連携」をテーマに

平成十八年一月二十六日(木)と二十七日(金)の両日、東京都内において「エネルギープラザ2005年度(主催経済産業省、(助)電源地域振興センター)」を開催いたしました。今回のエネルギープラザの基本テーマは、「地域力ー内発と連携」と設定。全国から約百団体、四百名の参加者にお集まりいただき、同テーマに重点をおいたプログラムを展開しました。

初日の開会式では、はじめに主催者を代表して経済産業省資源エネルギー庁の小平信因長官、(助)電源地域振興センターの勝俣恒久会長があいさつ。その後、日本政策投資銀行地域企画部参事 役の藻谷浩介氏が「今、各地にみる地域振興のうねり」と題して



主催者を代表してあいさつする小平長官

高齡化に触れ「この両問題は全くの別問題。就業者数(二十歳から五十九歳)の人口減少は十年で七百万人と急速に進み、そして就業者の減少は可処分所得の減少であり、多くの商品の消費は年々冷え込む。これが高齡化問題の本質であり、この解決のために少子化問題を論じ、出生者増数等で、就業者数を補おうとしても、不可能である」と説明しました。



講演する藻谷氏

講演を行いました。講演で藻谷氏は、「近年激増している貿易黒字や安定した所得黒字からみると、現在の日本が不景気だというのは誤りであり、むしろお金は余っている」と説明し、マスコミ等の情報をうのみにするのではなく、数字をよく見て理解して欲しいと強調。また少子化と高齡化に触れ「この両問題は全くの別問題。就業者数(二十歳から五十九歳)の人口減少は十年で七百万人と急速に進み、そして就業者の減少は可処分所得の減少であり、多くの商品の消費は年々冷え込む。これが高齡化問題の本質であり、この解決のために少子化問題を論じ、出生者増数等で、就業者数を補おうとしても、不可能である」と説明しました。



地域資源の再開発検討会

「地域事業経営検討会」で



合併を契機とした地域経営ゼミ

は地域経営における事業の仕組み、合意形成、展開手法などを先導事例とともに学びました。

さらに「地域産業活性化検討会」では循環型まちづくりや産学官の連携等による起業事例をもとに地域産業の活性化を学習しました。

午前に行われた第一部では、それぞれの検討会コーディネーターによる基調講演と各分科会講師を加えてのパネルディスカッションが行われ、テーマに関しての概論や講師からの幅広い視点でのディスカッションを展開しながら、午後の部に討議する具体的な課題を抽出しました。

また、第二部ではセミナーやゼミなど、参加性の高い少人数による分科会を実施。各会場では全国の先進的な取り組み事例や事前アンケート等からの課題をもとにその手法やノウハウについて活発な意見交換が行われ、コーディネーターが最後に総評を行って二日間の幕を閉じました。

あなたの地域の担い手づくり 最近の研修事業から

平成十七年十一月二十四日(木)・二十五日(金)の二日間、(助)電源地域振興センター主催の研修No.14「地域産業支援のあり方を考える」が、当センター研修室で実施され、全国の電源地域市町村から定員を上回る三十二名の方が参加しました。今回は、プログラムの中から、地場産業への支援、地域企業・大学・行政といった産学官連携による起業、そして研究開発に対する自治体の支援体制のあり方や知的財産のあり方などを学習した初日の研修の模様を中心に紹介いたします。

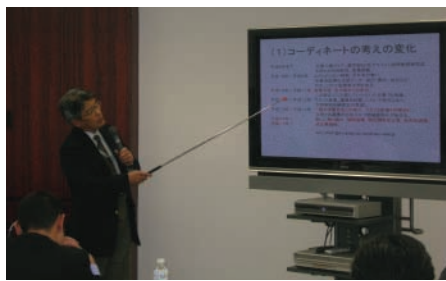
研修では、はじめに福島学院大学の下平尾勲教授が「これからの地域産業振興戦略」という演題で基調講演し、「地域経済を支える地場産業が衰退する昨今、再生への道として提起されたのがベンチャー企業の育成や新事業の創出です。成功の条件としては①市場が拡大する見込みがある②既存産業から発展する③産業集積を形成している地域である、といったことが挙げられ、これらの条件のもとで成長分野を見つけ出し、『売れるものを作る』ということが



これからの地域産業について説明する下平尾教授

重要です。そのためには、いかに他との違いを見つけてその違いを伸ばしていくかが大切であり、たとえ同じ原材料であっても、成分や産地のこだわりといった補助部分を工夫し、改良していくことが必要となります。地場産業の発展を実現していくためには、一つのを区分してそれぞれを専門的に展開したり、相異なるものを連携させ、力を集結した上で応用分野に発展していくような環境が求められています。そして何よりもリーダーとして周囲をけん引できる人材、裏方となり企画をまとめることができる人材の育成が不可欠です」と述べ、地域の財産を掘り起こす活動として、産学・地域連携を強調しました。

次に花巻市起業化支援センター統



コーディネーターの役割を語る佐藤氏

括コーディネーターの佐藤利雄氏が「起業家支援に関するコーディネーターの役割」と題して講演し、「花巻市起業化支援センターではベンチャー企業などに対し、研究施設や事務所スペースを提供するだけでなく、入居企業の技術的ニーズに対する大学など研究機関の紹介、入居企業の商品に対する営業支援を重要な施策として実施しています。このような取り組みは、すなわち入居企業と研究機関・第三者企業との間をうまくコーディネイトすることです。

私たちコーディネーターの重要な機能は、①マッチング機能(適切な研究やビジネスパーソンを紹介)②信頼補完機能(連携に参加する主体間の信頼を補完)



実践さながらの演習で営業力を向上

③翻訳機能(連携においてニーズやシーズの理解を促す。特に大学等研究機関と企業との思想的ギャップを埋める)④事業化機能(新製品を事業として立ち上げる)の四点です。特に事業化機能については、販路拡大支援がいかにできるかが重要であり、全国の自治体主導の起業化支援センターの多くがこの点で試行錯誤しています」と述べました。

また、起業化を支援しようとする者の心構えとしては「常に明るく元気に笑顔で、そして早い対応をすること」「できることから取り組むこと」「否定語を使用せず、前向きな話をする」ことが大切であることを訴えました。

講演後は、「自治体職員に求められるスキルは営業力である」をテーマに、参加者討論会を実施。討論会では、参加者が事前に持ってきた地元産品を手に商談の実践演習を行い、佐藤氏のアドバイスのもと営業力の向上を図っていました。

ふるさと
じまん

幻の果実

じゃばら

和歌山県 北山村

紀伊半島の中央部、奥深い山間にある和歌山県の飛び地、北山村には、ここだけにしかない「幻の果実 じゃばら」があります。温暖多雨な気候でありながら冬季気温は低く、寒暖の差が大きい北山村ならではの自然条件が生み出したかんきつ系果実。それ故に他地域での栽培は困難だといわれています。

じゃばらとは「邪(気)を払う」というところから名づけられたといわれ、北山村では昔から正月料理に欠かせない縁起物です。ユズよりも果汁が豊富でユズやスタチとは違った風味があり、まろやかさが特長です。さらに、疲労回復に役立つビタミンや、風邪の予防に効果があるといわれているカロチンも含まれています。

また、北山村ではじゃばらを原料にした商品開発も積極的に行い、じゃばらドリンクをはじめ、ジャム、ぼん酢、シャーベットなどを作っています。インターネットからお取り



じゃばら原料の特産品



まろやかな風味で栄養が豊富なじゃばら

寄せいただくこともできますので、詳しくは左記ホームページをご覧ください。

■お問い合わせ先
北山村販売センター

0735-4912037
<http://www.kitayamamura.com/>



ふるさと
じまん

特選 鷹島町のまて焼酎
「鷹島」とふぐ料理

長崎県 松浦市鷹島町

松浦市鷹島町は九州の西北端、伊万里湾口に位置し、東は幅二キロメートルの日本水道をはさんで佐賀県唐津市と向かい合い、現在、平成二十年度に完成予定の架橋工事が進んでいます。また、西に平戸諸島、北に壱岐島や対馬島が望め、海岸線は美しいリアス式で入り江に富み風光明媚な島です。さらには、七百年程前の元寇の際、十四万人の元軍が全滅した地として国史に残る島でもあります。

鷹島町にはもともと常緑高木のマテバシイの木が多く自生していて、秋には褐色でだ円形の実をつけます。地元ではその実をゆでて食用にしたり、焼酎を造ったりしていました。



モンゴル村レストハウスの「ふぐ料理」

平成元年

に商工会で、まて焼酎の商品開発がなされ、今では鷹島町の特産品・まて焼酎「鷹島」(乙類)として、そのスッキリした味わいが好評です。また、鷹島町は養殖トラフグの産地としても有名であり、玄界灘に面した良好な環境で丹精込めて育てられたトラフグはその姿・肉質共に優れ、市場においても日本一との評価を受けています。産地ならではの価格、量、食感を町内の料理店で存分にご賞味ください。また、宅配便での販売も致しております。



まて焼酎「鷹島」(乙類) 720ml 2,100円(税込)



■お問い合わせ先
地域振興課

0955-4813111
鷹島モンゴル村
0955-4812331

事務所移転のお知らせ

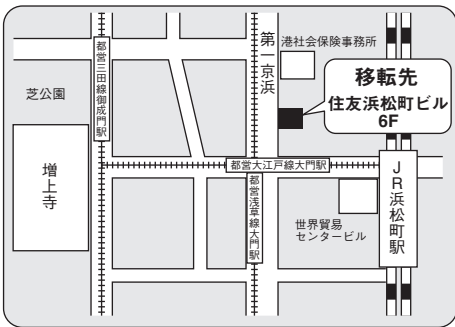
このたび当財団は、下記のとおりアーク森ビルから住友浜松町ビルへ事務所を移転し、平成十八年二月二十七日(月)から通常業務を行っています。

■新住所

〒105-0013
東京都港区浜松町二丁目十八番十六号
住友浜松町ビル六階

■電話番号

03-5540518111(代表)



Voic2 読者の声から

●昨年の十二月二十二日に新潟市は大停電を経験しました。現在、物質面でも生活面でも電気は不可欠。生まれてはじめての体験で、いかに電気が重要かと改めて思い知らされました。大切にしたいと思います。

(新潟県新潟市 女性)

●東海村に住んで約三十五年。ほとんど田舎だと思っていましたが、今では「原子力のまち」として注目を集めています。現在、行政は福祉充実へ力を注いでいますが、今後は、地域特産物である農業と

原子力との共存共栄を基盤に諸外国からの観光客を集められる学園都市および観光地の振興が望まれます。「団塊の世代」の地域参入を大いに期待し、孫・ひ孫世代へのまちづくりを考えて欲しいと思います。

(茨城県東海村 男性)

●わが町も合併し、これから地域振興に取り組むことになっていきます。町民として、行政の方へ意見を提案していきたい。貴センターの情報誌を利用して勉強したいと思いま

す。(石川県中能登町 女性)

人事往来

経済産業省(平成17年12月~平成18年1月分)抄

●平成18年1月6日付

氏名	(新)	(旧)
小川 秀樹	中小企業庁事業環境部長	中部経済産業局長
佐藤 樹一郎	中部経済産業局長	中小企業基盤整備機構総務部長

電源地域市町村首長(平成17年12月~平成18年1月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
本山町(高知)	今西 芳彦	12月 4日
梶原町(高知)	中越 武義	12月 6日
紀の川市(和歌山)	中村 慎司	12月11日
関川村(新潟)	平田 大六	12月13日
相馬市(福島)	立谷 秀清	12月18日
竹原市(広島)	小坂 政司	12月18日
二本松市(福島)	三保 恵一	12月25日
榛名町(群馬)	富澤 素行	12月25日
由岐町(徳島)	賢司 和泉	1月15日
勝浦町(徳島)	中田 丑五郎	1月17日
小海町(長野)	篠原 伸男	1月17日
阿東町(山口)	田中 祥隆	1月17日

市町村名	氏名	当選月日
長南町(千葉)	藤見 昌弘	1月17日
五泉市(新潟)	五十嵐 基	1月22日
裾野市(静岡)	大橋 俊二	1月22日
綾部市(京都)	四方 八洲男	1月22日
大多喜町(千葉)	田嶋 隆威	1月22日
上富田町(和歌山)	小出 隆道	1月24日
紫波町(岩手)	藤原 孝	1月24日
豊浦町(北海道)	工藤 國夫	1月24日
阿智村(長野)	岡庭 一雄	1月24日
宮崎市(宮崎)	津村 重光	1月29日
平川市(青森)	外川 三千雄	1月29日
二戸市(岩手)	小原 豊明	1月29日
南相馬市(福島)	渡辺 一成	1月29日
延岡市(宮崎)	首藤 正治	1月29日
一色町(愛知)	都築 謙	1月29日
立山町(富山)	舟橋 貴之	1月29日

読者プレゼント

今号の「電源地域のサクセスストーリーI」でご紹介した岡山県真庭市のランドエス株式会社様のご厚意により、ヒノキの間伐材から生まれた「モコプランター(二個セット)」を五名様にごプレゼントいたします。お庭や玄関などにご利用いただくとともに、ほのかに香る森の香りをお楽しみください。とじ込みのアンケートハガキに本誌へのご意見、ご感想などをご記入の上、四月十四日(消印有効)までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。



【編集後記】

「電気のふるさと」の編集に携わる中で、地域づくりは小さな気付きやアイデアから始まり、それらを形にし、広めていくことが大切なのだ、日々感じています。

今回、サクセスストーリーで取り上げました真庭市や長野市松代地区の実践事例は、住民や企業、行政の方々が気付きやアイデアを共有し、それらをアウトプットする機会が数多く設けられ、共通の目標や認識を作ったこと、さらに素晴らしいものが作り出されてきました。「電気のふるさと」編集室では、読者の皆様にご役立つ情報やアイデアのきっかけをお届けできるように、今後とも紙面づくりに取り組んでまいります。(S)